

第43回全国都市緑化フェア in 京都丹波とSDGs17の目標の関係について

目標	具体的な取組
<p>1 貧困をなくそう</p> 	<p>地場農産品のブランド化と付加価値向上による、地域生産者の所得向上を行います。「食農」をテーマに農産物を全国へ発信・販売する機会を創出することに加え、フェア開催に伴う会場設営・運営・物販・飲食サービス等での雇用創出を図り、地域経済全体を底上げすることで相対的貧困の緩和に貢献します。</p>
<p>2 飢餓をゼロに</p> 	<p>「京都・亀岡保津川公園」を中心に展開される、オーガニック農園体験や市民農園の整備により、「農に触れる場の創造」として、来訪者に持続可能な農業への理解を深めてもらうとともに、地産地消を推進することで、地域レベルでの食料安全保障と持続可能な農業の実践を後押しします。</p>
<p>3 すべての人に健康と福祉を</p> 	<p>亀岡運動公園拠点などでの「花と緑をゆっくり楽しむボードウォーク」の整備や自然体験を通じた、来訪者のストレス軽減とウェルビーイング（心身の健康）の向上を目指します。また、各会場においてユニバーサルデザイン・バリアフリーに配慮したインフラ改修を行うことで、高齢者や障害のある方など誰もが安心して散策・運動できる環境を提供します。</p>
<p>4 質の高い教育をみんなに</p> 	<p>次世代育成のための実践的な環境学習プログラムとして、「わち山野草の森」や「園部公園」における地元産材を使った小中学生のプランター作品展示や田んぼアートの制作体験のほか、山野草や生態系への理解を深める講座を通じて、教室内では得られない生きた環境教育の場を提供します。</p>
<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> 	<p>フェアの企画・運営において「多様な主体の参画」を推進することは、性別に関わらず誰もが平等に地域のまちづくりやイベント運営の意思決定プロセスに関われる機会を提供することを意味します。特定の性別に偏らないフラットな市民協働のプラットフォームを構築することで、結果として地域コミュニティにおけるジェンダー平等の意識醸成や、多様性の尊重につながります。</p>

<p>6 安全な水とトイレ を世界中に</p> 	<p>フェア開催に向けた会場インフラ整備の一環としての、既存公園施設における衛生的なトイレ環境の改修(ユニバーサルデザイン化含む)を行います。また、わち山野草の森などでの森林・里山の適切な管理は、地域の水源涵養機能を高め、豊かな水環境の保全に寄与します。</p>
<p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p> 	<p>フェアで使用する植物の調達において「地産地消」を徹底することは、遠方からの輸送に伴うエネルギー消費(車両の燃料等)を大幅に削減することに直結します。また、環境に配慮した素材の選定を基本方針に掲げることで、資材の製造・輸送プロセスにおけるエネルギー負荷を低減し、イベント運営におけるエネルギー利用の効率化とクリーンな開催を推進しています。</p>
<p>8 働きがいも 経済成長も</p> 	<p>グリーンツーリズム、エコツーリズム、ガーデンツーリズムといった新しい観光形態を展開します。京都丹波地域の周遊によって観光消費を生み出し、生産者や地元飲食店、民間事業者と連携したビジネス展開を行うことで、地域ならではの資源を活かした持続可能な経済成長と働きがいのある雇用機会を創出します。</p>
<p>9 産業と技術革新の 基盤をつくろう</p> 	<p>亀岡運動公園拠点における「全国造園デザインコンクール受賞作品の展示」をはじめとした、造園技術の結集・交流の場をつくります。実施計画に示される現代アートと庭園の融合や、防災・減災機能を持たせた「グリーンインフラ」の実践的整備は、関連業界の技術革新や新しい都市基盤づくりのモデルとなります。</p>
<p>10 人や国の不平等 をなくそう</p> 	<p>本フェアが掲げる「都市と農山村地域(京都丹波)の交流促進」は、都市部に偏りがちなリソースや関心を地方へと向け、地域間の相互理解を深めることで国内の地域間格差の是正に貢献します。さらに、「多様な人々が楽しめるように、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮する」方針や、園部公園等における具体的なバリアフリー改修は、年齢や障害の有無によるアクセス格差(不平等)を軽減し、誰もが平等に自然や文化を享受できる包摂的な環境づくりを推進するものです。</p>

<p>11 住み続けられる まちづくりを</p> 	<p>本フェアの最も重要な目標の一つです。地域住民の協働で作る「修景花壇」などの景観向上に加え、「グリーンインフラの拠点」としての公園整備が該当します。自然環境の機能を活用した防災・減災力の強化を図り、フェア終了後も市民の憩いの場となる安全でレジリエントなまちづくりを推進します。</p>
<p>12 つくる責任 つかう責任</p> 	<p>使用する植物の地域内（京都府内・京都丹波地域内）調達や廃棄物の資源化により、安易な廃棄を避け、植物や資材の再利用に取り組むこと、草刈りごみの堆肥化などを実践的に示すことで、サーキュラーエコノミー（循環型経済）の手本を来訪者に提示します。</p>
<p>13 気候変動に 具体的な対策を</p> 	<p>都市緑化の推進と、里山・農地の保全活動を実施し、植物によるCO2吸収源の確保や、緑被率の向上による微気象の改善（ヒートアイランド現象の緩和）に貢献します。さらに、小中学生に向けた環境学習を通じ、将来世代への気候変動に対する意識啓発と行動変容を促します。</p>
<p>14 海の豊かさ を守ろう</p> 	<p>京都・亀岡保津川公園など、河川に隣接する環境での自然保全活動とオーガニック農業の推進を行います。京都丹波は、川を通じて海へと流れ込む上流域に位置しています。この地で減農薬など環境に配慮した農業を推進し、豊かな森を守り育てることは、川から海へ続く水質への負荷を減らし、「森・川・海」の連鎖的な環境保全に直結します。</p>
<p>15 陸の豊かさ も守ろう</p> 	<p>わち山野草の森での取組をはじめとする、生物多様性の保全と展示を実施し、約720種の山野草や豊かな樹林を活かした自然体験、グリーンツーリズムを通じた里山の維持管理を推進することで、陸上生態系の保護と持続可能な利用の価値を全国へ発信します。</p>
<p>16 平和と公正を すべての人に</p> 	<p>協働推進事業の推進として、行政だけでなく、地域住民やNPO団体、企業が参加するワークショップを通じてフェアのあり方を決定しており、透明性が高く、誰もが参加できる公正な制度・意思決定プロセス（ボトムアップ型のまちづくり）を実践しています。</p>

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



開催に向けた「産・官・学・民」の連携体制を構築しており、国（提唱）、京都府・亀岡市・南丹市・京丹波町（主催）という複数の行政主体に加え、都市緑化機構、教育機関、民間事業者、そして地域のボランティアやNPO 団体が一体となって事業を展開しており、多様なパートナーシップによる課題解決のモデルケースとなります。

第 43 回全国都市緑化フェア in 京都丹波 HP (<https://kyototamba-fair.jp/>)